

「平和」を願う気持ちをいつまでも

65年前、ここ沖縄では、住民を巻き込む激しい地上戦が展開され、20万人余のかけがえのない生命が失われた。

1945年（昭和20年）6月23日は、沖縄戦において日本軍の組織的戦闘が終わった日とされている。

沖縄県では、その6月23日を、恒久平和を希求するとともに戦没者の霊を慰めるため、沖縄独自の祭日「慰霊の日」として定めた。（1974年10月）

毎年「慰霊の日」の正午は、「世界の恒久平和」を願う一人ひとりが黙祷を捧げる。

その一人ひとりの願いが沖縄からの平和メッセージとして全世界へと羽ばたく・・・

6月23日は、戦没者の御霊を慰め、戦争の悲しさ、怖さ、そして命の尊さを考え、「平和」を願う気持ちをいつまでも持ち続けるためのきっかけとなる大切な一日にしたい。